

## 指定管理評価表(第2・第3老人福祉工場)

平成31年3月31日現在

<b>施設概要</b>	第2老人福祉工場(尼崎市立花町3-10-13)、第3老人福祉工場(尼崎市久々知2-28-5) 開館時間9:00~17:00(休館日:土・日・祝・年末年始) 施設設置目的:老人福祉工場 事業内容:老人に対し、労働の場を提供することにより、老人の生きがいを高め、その福祉の増進に寄与する			
<b>指定管理者の名称</b>	公益社団法人尼崎市シルバー人材センター			
<b>指定期間</b>	平成29年4月1日~令和4年3月31日			
<b>業務概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場が行う事業の実施に関すること。</li> <li>・工場の利用の許可、その取消しその他工場の利用に関すること。</li> <li>・工場の施設及び付属設備の維持管理に関すること。</li> </ul>			
<b>利用状況等</b>	項目名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
	利用者数	5,909人	6,346人	5,063人
	自主事業数	1事業	1事業	1事業
	自主事業参加者数	38人	47人	45人
<b>所管課・所管課長名</b>	健康福祉局福祉部高齢介護課・西岡 茂晴			
<b>評価対象期間</b>	平成30年4月1日~平成31年3月31日			

評価項目	説明	評価	評価コメント
<b>1 サービスの質の維持・向上</b>		<b>C</b>	利用者数の増加に向けては、新たに工場を活用してパソコンや筆耕などの教室を開催したり、シルバー人材センター会員募集の際に同時募集を行い、新規利用者の掘り起こしを行っている。 また、受注単価が低くなっていることもあり、受注実績が昨年度に比べて減っている。 引き続き、利用者数の増加と受注拡大に向けて努力されたい。
自主事業・指定事業	計画に沿って、積極的に自主事業・指定事業に取り組んでいるか		
サービス向上	サービス向上の取組みがされているか		
施設利用者数	施設利用者の掘り起こしがされているか		
利用者要望の把握	利用者要望の把握がされているか		
事業計画性、透明性	事業が計画的に、かつ透明性を確保して実施されているか		
住民・利用者の参画	住民または利用者とのパートナーシップを推進しているか		
<b>2 適正な施設の管理</b>		<b>B</b>	施設の保守管理は、概ね適正に行われており、日誌による記録保管も実施されている。 事故、緊急時の体制は整備されており、安全講習会を実施し、利用者に安全に対する意識づけを行っている。
施設保守・管理	施設の保守、管理が適正に実施されているか		
職員体制	合理的な配置か、責任体制が整った配置か		
危機管理	事故・緊急時の体制が十分に整備されているか		
個人情報管理	個人情報の管理が適正であるか		
職員研修	職員研修が十分に実施されているか		
<b>3 収支・経費節減</b>		<b>B</b>	収支状況は概ね良好である。 経費節減と効率的な予算執行について、引き続き取り組まされたい。
収支状況	収支の状況が適正かつ良好であるか		
経費節減の取組	経費節減の取組みがされているか、		
<b>4 指定管理者の経営状況等</b>		<b>B</b>	会計手続きは適正になされており、経営状況については概ね良好である。
会計状況	適正な会計手続きがなされているか(監査報告書等による)		
経営状況	経営状況は良好か(貸借対照表、損益計算書等による)		
<b>5 その他</b>		<b>C</b>	文書等は、適切に管理されているものの、内部評価は実施されていないため、今後、評価の仕組みを構築されたい。
文書等の管理	文書類、帳簿、備品、資料等が適切に管理されているか		
評価の実施	内部評価を実施しているか		

指定管理者選定に係る事業計画書の主な取組内容	左記に関する取組状況とその取組に対する評価
・老人に対する労働の場の提供 ・利用者の増加及び仕事量の確保	昨年度に作成した老人福祉工場のパンフレットによる広報活動以外に、新たな試みとして工場の宣伝と高齢期の就労につながることを目的としたパソコン教室や筆耕教室を開催した。新規加入者はいるものの、利用者数の増減があり、工場の利用者数の増加にまでは至っていない。 また、受注内容の単価が低いこともあり、2工場とも前年度と比較して請負金額が低くなっている。 内職業界は厳しい状況が続いていると思われるが、新規受注業者の拡大や自主事業の充実、さらに利用者の仕事量の安定確保に向けて、引き続き積極的な取組を期待する。

総合評価	総合評価の理由、今後の課題等
<b>C</b>	利用者の増員と工場のPRIに向けた新たな広報活動を行っているが、増員と減員が繰り返され、実質的な増員にまでは至っていない。また、受注内容によっては単価が低いため、利用者一人当たりの配分金額は前年度と比較すると下がってしまう。しかしながら、利用者にとっては、健康や仲間づくり及び生きがいづくりを目的に就労しているとの意見が多く、満足度は高いため、引き続き、利用者増加に向けた積極的な取組と受注の確保・拡大を期待する。

※ 評価は、A~Eの5段階評価とする。

※ 確認調査の結果をチェックリスト等に記入する。更に1~5の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

※ A:非常に良好である又は非常に成果があった。 B:やや良好である又はやや成果があった。 C:取組状況の水準が普通である。

D:やや改善の余地があった。 E:多くの改善すべき点が見受けられる。